

ストーリー紹介ページ

忍者キャンプ 四幕

～未来からの手紙～

2015 Fall

強き想いは
時空を超えて
その手が握るは
遙か日の空

※この物語はフィクションです

【プロローグ】

舞台は「雲の国」、忍者の隠れ里「風渡（かぜわたり）の里」。
参幕では忍者学校の生徒たちの活躍もあり、無事、風渡の里の平和は守られていた。

そんな中、村のおまわりさんが謎の手紙を拾ってきて、里の偉い人たちが調査を開始するも…
なにやら、めんどくさいコトになってきている模様！？

【手紙の内容（一部、読み取れない部分有り）】

「= 風渡の祖先のみなさん = 本当の敵は■■■ 私たちの時代は■■■■ ■うか争わないでくださ ■ 百年後の民よ■」

100年後から届いた手紙に、右往左往するお偉方。
「未来」からの願いとは一体！？

君は「忍者学校の生徒」。
時空を超えた壮大な「謎」を解き明かせ！！



【壱】

忍頭（しのびがしら）の雲海さんは困っていた。

おまわりさんが拾ってきた「未来からの手紙」を里の偉い人たちに報告したところ、「重要機密」ということで偉い人たちが調査することになった。と言うところまでは良かったのだが…

どうやら上手くいってない。というか、さっぱり何も分かっていないようで、突然「なんとかしろ！」と言われたからであった。

『それだったら始めから、こっちで調査するっっちゃうねん！』と
変な方言でグチが出てしまう雲海さんは、なんと3キロも痩せてしまったようだ。

それに追い打ちをかけるように、

調査任務として、忍者学校の「赤錆先生（あかさびせんせい）」に調べてくるように命令したところ、一週間も帰ってこないため、今度は学校の運営に困って、隣の「日向（ひゅうが）の里」や「涼出（すずいで）の里」から先生を派遣してもらった始末であった。

『もうやんなっちゃうよ。頼りになるのは君たちしかない！』

風渡忍者学校生徒諸君！

忍者として修行を積み調査活動をし、この「謎」を解き明かしてくれ！！



【 弐 】

雲海さんや他の里の先生たち、里のおまわりさん、写真家さんの指導を受けて1日の修行が終わった生徒たちは、修行の成果と里で見つけた「謎」の報告会をしていた。

生徒たちの見つけてきた「謎」を解いていくと…

「敵は近くに有」

との暗号が出てきた！

騒然とする報告会だったが、

雲海さんは『惑わされずに、しっかり警戒して過ごすように。』と皆に言い、報告会を終えたのだった。



【 参 】

翌日の修行の予定の話が終わった頃、

雲海さんの表情が突然変わった。

『シッ！ …… 』

『忍法！雷雲っっ！』

雲海さんが窓の外に向けて攻撃忍術を打つ。

爆発音と共に、走り去る足音！

おまわりさんが、すぐに現場を確認するもすでに人はいなくなっていた。

代わりに残された「鍵付きの謎の箱」と「赤い額当て」…

やはり、敵は近くにいるのか！？

謎が残ったまま夜を迎えることとなった。



【 四 】

2日目の夜。修行の報告会。

今日も修行と共に見つけてきた「謎」を解いてみると…

なんと、「鍵付きの謎の箱」が開いた！

中には、暗号のような札が入っていた。

勘の良い生徒たちは、その札は1日目におまわりさんが拾っていた「変な道具」と合体出来ることに気づくが、「変な道具」は昨晚、雲海さんが偉い人たちに報告に行った時に渡していたため、その場にはなかった。

なぜか、札を見たがる写真家さんであったが、

『今日の偉い人たちへの報告に持っていかなければならない。』

との理由で断り、全員で翌日に向けて、風渡に伝わる忍者の儀式を行うこととなった。



【 五 】

儀式も終わり、翌日の修行の確認を行おうとした時だった。

「雲海さん、すみません。儀式の最中だったので言えませんでした。里の門のところに赤錆先生がいるようです。しかもケガをしているようで…」

と、写真家さんが言ってきた。

それは、大変だ！と向かおうとする雲海さんに、

「先ほどの『札』は大事な物。ここで預けていった方が良いのでは。」

と、気のきくアドバイスを写真家さんはくれたので、雲海さんは札を里の教師の「おとく」に預け、里の門まで走っていった…



【 六 】

雲海さんが走り去ったあと、

突然「敵が近付くと光るセンサー」が光り出す。

「あ～ コレ、雲海さん、自分でひっかかっちゃったんじゃないの？」と、意に介さないおとく。

すると、外から今まで聞いたこともないような爆発音が！

「敵だ！みんな、あせらないで！腰を低くして！備えて！」

緊張が高まる一同。

警戒するおとくたちの後ろで、刀を抜く者の姿…



写真家だ！

写真家は、おとくに襲いかかる！

それを守ろうとする「陣風のコウ」は、写真家との戦いに突入！

コウとおとく、二人がかりで戦うが写真家にかなわない。



「札を出せ！」

叫ぶ写真家に、おとくは捕まっていた。

すると、帰って来た雲海さんが写真家を一蹴。

『なんで、ケンカしてるの！！』



【七】

一瞬で場を制圧した雲海さんは尋ねる。

『お主、本当の名をなんと申す』

「…根来（ねごろ）忍者。里見十兵衛（さとみじゅうべえ）」

どうやら、根来の里にも、未来から手紙が来たらしく、その調査で忍びこんでいたようであった。

雲海さんの手には、おまわりさんが拾ってきた「変な道具」が。

「札」と合体させた雲海さんは、その札を里見に渡したのだった。

里見が暗号を解いた内容を読んでもみると…

**トオクナイミライ、セカイセンソウガアル。センソウハオワルガ、セカイニヒトノイキラレルバショハ、ホンノ
ワズカトナル。ワタシタチハ、ハメラレタ。ホントウノテキハゲンゴロウ。ワタシタチノジダイハホウカイスン
ゼン。ドウカアラソワナイデクダサイ。**

その内容を里見が読み上げた時、

「え—————っ！！」

との、叫び声が外から聞こえてきた。

『お主も出てこい！！』



出てきた者の名を雲海さんが尋ねると、

間久間（まくま）忍者のサキヤマ・イッサと言う者らしい。しかも、イッサのいる間久間の里の忍頭（しのびがしら）は10年程前から「ゲンゴロウ」と言う者がやっているらしい。

「ゲンゴロウさんが世界戦争の敵??」

混乱するイッサ。

『話が突然すぎてよく分からないが、一つ言えることは、争うべき相手は我ら同士ではないということだ。皆で力を合わせ考えようではないか。』

雲海さんはそう言い、皆、うなずいたのであった。



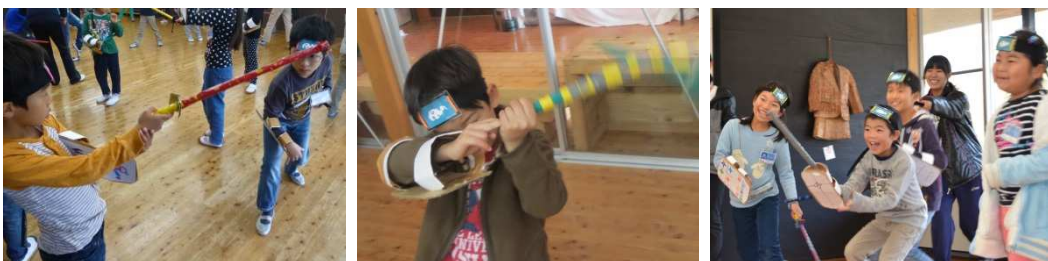
【八】

翌朝。

一晩中、話し合った一同であったが、元々敵同士だったためか、なかなか上手くいかなかった模様。表面上は仲良くやっているが… なんだかギスギスした雰囲気である。

そこで、とりあえずもっとお互いのことを知るために、

お互いの里の「流派」の剣術を皆で披露しあうこととなった。



【九】

剣術の修行も終え、お互いのミゾも埋まった頃…

またしても、突然、イッサが叫んだ！

「シマッタ。ゲンゴロウさんからこの里に… 爆弾を仕掛けるように言われて…

爆弾、仕掛けてたんだっ。」



は？

目が点の一同。

しかも爆発までの時間はあと20分！爆弾の数はなんと90個！3分2以上回収すれば爆発はしないらしい！

手わけして走り出す生徒たち！

最早一刻の猶予もない！



【十】

爆弾の解除も残り20秒でなんとか完了した。

他にも何か忘れていないかイッサに問い詰める一同だったが、もう大丈夫らしい。



.....

一時の平和が訪れた風渡。忍者学校の生徒たちも家路につこうとした時...

またしてもイッサが叫び出す！

「身体が！身体が勝手に！！ 違うんだ！とめてくれー！」

突然、コウに襲いかかるイッサ！

驚くコウに里見がイッサを押さえつける！



『エイっっ!!!』

雲海さんの一撃でイッサは気絶したのだった…

忍者キャンプ四幕 ~未来からの手紙~ 完結

「忍者キャンプ壱章最終幕 ~忍ぶ者たち~」へ、つづく…

